

発表場所：（社）日本測量協会 投げ込み

発表日時：平成17年12月26日（月）

解禁日時：平成17年12月26日（月） 10時

社団法人 日本測量協会

日本測量協会の民間資格「空間情報総括監理技術者」有資格者が自主活動組織を結成

社団法人日本測量協会（会長 ^{みやまきやまと}宮崎大和）が実施する民間資格「空間情報総括監理技術者」の有資格者が、空間情報技術の更なる発展の先導的役割を担うことを期して、自主的な活動組織「スペーシャリストの会」（会長 ^{せとしままさひろ}瀬戸島政博）を結成しました。

会員は空間情報総括監理技術者に限られ、会の活動を通して自己の専門技術の向上とともに、空間情報技術を普及発展させるための出版や提言を行うことが企画されています。

詳細は別紙のとおりです。

その他参考資料

別紙1： 「スペーシャリストの会」について

別紙2： 「空間情報技術のさらなる発展に貢献するために（「スペーシャリストの会」を創設）

社団法人日本写真測量学会誌『写真測量とリモートセンシング』

VOL.44, NO.6, 2005 巻頭言

（問い合わせ先）

社団法人 日本測量協会 〒112-0002 東京都文京区小石川1-3-4

測量継続教育センター 空間情報技術教育部長 山本 博 電話 03-5684-3352

測量継続教育センター 教務部長 佐藤春治 電話 03-5684-3355

「スペーシャリストの会」について

社団法人日本測量協会（会長 宮崎大和）が実施する民間資格「空間情報総括監理技術者」の有資格者が、空間情報技術の更なる発展の先導的役割を担うことを期して、自主的な活動組織「スペーシャリストの会」(Spatialist Club)を結成しました。

「スペーシャリストの会」(会長 瀬戸島政博)に入会できるのは空間情報総括監理技術者有資格者に限られ、会員は空間情報技術に関する高度な専門知識とその利活用に関する豊富な経験と見識を有する専門家集団です。会員の所属する企業・機関の枠を超えた自主的・独立的な運営を基本に据えた活動を行うことにしており、当面、情報交換会、研修会、視察会、講習会、講演会などを通して会員相互の自己研鑽につとめるとともに、空間情報技術の指導と普及のための出版や、社会に貢献する政策提言などが企画されています。

空間情報総括監理技術者は日本測量協会が平成17年から実施している民間資格で、測量士の有資格者であること、技術士資格または博士称号あるいはそれと同等の能力を有すること、15年以上の空間情報関連業務の経験があること、当該業務の責任者を2回以上経験していること、の4つの条件の全てを満たした上、筆記試験と面接試験に合格した者(平成17年度の合格者は24名)に与えられる資格です。多様かつ高度な空間情報技術を活用する公共事業の実践業務を総括監理する上級の主任技術者として、また、空間情報技術を活用する技術者の規範となる人材としての活躍が期待されている専門家です。

会の名称 「スペーシャリストの会」
会 長 瀬戸島政博
顧 問 村井俊治（東京大学名誉教授，日本測量協会副会長）
事務局 日本測量協会 空間情報技術教育部
発 足 平成17年12月1日

(注) 会の名称 Spatialist Club は、空間 Spatial と専門家 Specialist を合体した造語です。

別紙 2

(注) 社団法人日本写真測量学会誌『写真測量とリモートセンシング』
VOL.44, NO.6, 2005 巻頭言 (2006年1月5日発刊予定)

空間情報技術のさらなる発展に貢献するために (「スペシャリストの会」を創設)

瀬戸島政博 (スペシャリストの会 会長)

聞き慣れない会称で、スペシャリストの間違ひではないかとお思いの方もいるかと存じますが、「スペシャリストの会(Spatialist Club)」は、昨年秋に発足した空間情報の専門家集団の会で、空間の形容詞である Spatial と専門家の Specialist を合わせた造語です。

この会は、空間情報の専門家集団が自主的な活動を通して、わが国の空間情報技術のさらなる発展と先導的役割を果たし、合わせて会員相互の親睦を図ることを目的にしています。会員は、正会員と顧問からなり、正会員は、社団法人日本測量協会が実施する「空間情報総括監理技術者」として資格認定された者です。現在は、昨年夏に実施された認定試験に合格した 24 名です。さまざまなご指導を賜うために村井俊治先生に顧問をお引き受け頂いています。会称の「スペシャリスト」は、村井先生が名付け親です。

災害に強い国土づくりや新たな国土形成計画など、国土管理に関する諸施策が進展するなか、空間的広がりを持つ地表の地物位置と関連付けられる様々な情報を扱う空間情報は、最優先して整備する基盤情報と位置づけられます。それらの情報には、製品仕様・品質仕様、使われ方についての要求仕様などの定義やそのための技術が必要とされます。さらに、空間情報の各仕様の策定、取得、運用に至るまでの情報ライフサイクル全般にわたる管理技術、加えて、多方面にわたる利活用の提案など、高いレベルからのコンサルティングが求められます。

このような社会的な要請に応えていくのが「空間情報総括監理技術者」の使命と言えます。「スペシャリストの会」は、「空間情報総括監理技術者」相互の技術や情報の交換等を通して、当該技術の向上や広く社会的な貢献を果たしたいと考えています。この会の面々は、空間情報に関する高度な専門知識とその利活用に関する豊富な経験・見識の持ち主ばかりです。その力を十二分に発揮し、社会に貢献するには、より高い視点からの技術者相互の交流や協働が何よりも必要とされます。

これまで、われわれの周辺では、所属企業や機関の枠を超えた技術者らによる自主的な運営を基本とする活動をあまり目にしていません。大袈裟な言い方をすれば、この会がその先鞭を着けることになるのかもしれませんが。とは言え、発足間もない会を運営していく

には様々な事務処理が生じます。その点で日本測量協会空間情報技術教育部に事務局をご支援頂いています。

当面、情報交換会、研修会、視察、講習会、講演会、出版、提言、などの活動を通じて、空間情報技術の指導と普及、空間情報技術に関連した情報発信、空間情報総括監理技術者の相互連携などを図っていく所存です。また、正会員だけに限らず、広く空間情報の世界に生きる技術者・研究者の技術サロンの役割が果たせられるような会の活動と雰囲気作りにも努めるつもりです。

「スペシャリストの会」では、今後、多くの方が入会頂けることを願っております。それには先ず、「空間情報総括監理技術者」認定試験を受験し、合格することが条件となります。この試験では、測量士の資格を有し、技術士の資格あるいは博士の称号、またはこれらと同等の能力を有して、空間情報関連業務に15年以上従事し、かつ、当該業務の責任者を2回以上経験していることが受験資格となっています(<http://www.jsurvey.jp>)。

今、空間情報の世界に生きる技術者には、自己の専門技術の深耕のみならず、関連事業の企画、提案、監理の能力、加えて、高い技術者倫理や不断の継続教育などが求められています。「スペシャリストの会」がその一翼を担えれば幸いです。

最後に、このような「スペシャリストの会」の活動が、空間情報の世界の“知的な梁山泊”の役割を果たせるものと確信しています。